



杓目銅香炉「菊花（きっか）」w90×d90×h70mm 第10回秋田工芸展・10回記念特別賞



石山 敦子 Ishiyama Atsuko

冷たく硬い一枚の金属の板から金槌を使って流線型の立体を作る鍛金という技法に魅せられて金工の道に入りました。截（き）る・叩く・溶接など鍛金で使う道具のバリエーションは限りなく、道具を駆使して失敗を重ねながら修練の日々です。大胆でありながら繊細な感覚を心がけたいと思っています。計算と経験と勘によって生み出される杓目銅（もくめがね）の美しい模様を追求しながら、端正な接合（はぎあわ）せを目指したいと思っています。

1954年秋田市生。2000年4月から千貝工房にて鍛金を始め、現在に至る。